

(参考資料) 労福協加盟団体の理念・ビジョン等



ろうきんの理念 (97年)

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。
 ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。
 ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。
 会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
 ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。



連合20周年宣言

(09年8月 連合20周年PT最終報告)

新たな労働を中心とした福祉型社会の確立

「働く」ことの価値が共有化され、「労働の尊厳」が尊重される社会、日本で働き暮らす人々が主人公で、その「幸せ」に最大の価値をおく社会の創造をめざします。

* 連合20周年を契機に、新しいビジョン(持続可能な社会像)と政策パッケージを発表予定(09年12月)



生協の21世紀理念 (97年)

自立した市民の協同の力で
 人間らしいくらしの創造と
 持続可能な社会の実現を

2010年ビジョン (構造改革の長期指針 05年)

1. 事業 「ふだんのくらしにもっとも役立つ事業」
2. 経営 「コスト構造改革を徹底する経営」
3. 連帯 「くらしへの最大貢献をめざす事業連帯構造の確立」
4. 組織 「社会に開かれた組織」
5. 社会的役割 「消費者組織としての社会的役割の発揮」

協同労働の協同組合(労協連)

使命(めざすもの)

1. 人のいのちとくらし、人間らしい労働を、最高の価値とします。
2. 協同労働を通じて「よい仕事」を実現します。
3. 働く人びと・市民が主人公となる「新しい事業体」をつくります。
4. すべての人びとが協同し、共に生きる「新しい福祉社会」を築きます。

ビジョン(02年)

「労働の人間化・地域的人間的再生」を中心価値とする
 市民主体の新しい福祉社会の創造に貢献する
 (地域協同まちづくり、事業組織、国際平和、社会連帯、労働の価値創造の各ビジョン)
 ・その他に、定義、7つの原則、経営理念(全組合員経営)あり

ろうきんと全労済がめざす新たな生活者福祉(09年)

1. すべての生活者が、将来にわたって、ゆとりを実感できる暮らし。
2. 人と人とのつながりによる、夢と希望のある地域社会。
3. たすけあい、思いやりのある社会。

あたらしい全労済の理念(07年)



みんなでたすけあい、
 豊かで安心できる社会づくり

【信条】

組合員の全労済、正直な全労済、努力の全労済

21世紀ビジョン(99年)

- (21世紀初頭の全労済の基本目標~2010年頃までを想定)
1. 総合生活保障をめざす取り組み
 2. 「組合員の全労済」の実現
 3. 新しい社会システムと豊かな地域社会づくりへの挑戦
 4. ゆるぎない経営基盤の確立
 5. 共済協同組合の大同団結



労福協の理念と2020年ビジョン

(2009年)

連帯・協同でつくる
 安心・共生の福祉社会

- ・連帯(協同)経済の領域の拡大 ~ 市場の暴走を抑制する役割
- ・人と人とのつながり・絆が大切にされる、ぬくもりのある社会
- ・貧困や社会的排除を許さず、参加が保障される社会
- ・労働を中心に様々な社会サービスをつなぐ支援型の福祉
- ・お金やGDPでは測れない価値の重視
- ・環境に優しい持続可能な社会

(2020年に向けた活動の方向性・基本目標)

1. 国民の共感の得られる社会運動と政策提言
2. 地域で、すべての働く人の拠り所として頼りになる存在に
3. 労働者福祉運動の基盤強化 ~ 運動を継承し、次代に伝える
4. 協同事業の社会的価値と力量を高める
5. 堀(企業・正社員)の外へと福祉を広げる

ICAの協同組合原則(95年9月 マンチェスター大会)

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満すために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

- (第1原則) 自発的で開かれた組合員制
- (第2原則) 組合員による民主的管理
- (第3原則) 組合員の経済的参加
- (第4原則) 自治と自立
- (第5原則) 教育、訓練および広報
- (第6原則) 協同組合間協同
- (第7原則) コミュニティへの関与